



埋没縫合を用いたシャント手術について

新生会第一病院 外科部長 谷山 宣之(金・土曜シャント外来担当)



この度、4月より新生会第一病院でシャント外科として着任しました谷山です。まだまだ不慣れな点が多々ありますが、どうぞよろしくお願い致します。

さて、私は現在まで何人もの外科医に師事してきましたので、手術や縫合の方法も様々です。そこで、大きく違ってくるのが術後に患者さんやスタッフが目に付く創部になると思います。私は感染の手術以外は吸収糸で埋没縫合を行っています。理由は抜糸が痛いことと、私自身がおじさんになったため、抜糸時の糸がよく見えないためです。残念ながらコスメティックなことは考えておりません。

埋没縫合にもいろいろありますが、患者さんの皮膚の状態により縫合の仕方を変えております。糸の抵抗を利用して最後に表層部を縫うこともあります。皮膚の硬さや張りが患者さんにより違うため、傷に隙間ができることがあります。この場合は、縫合テープ(商品名:ステリストリップテープ)で固定させて頂いております。

今までのような
一般的な縫合の写真



埋没縫合の写真



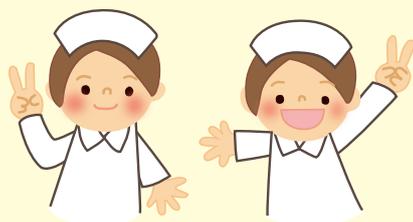
埋没縫合に縫合テープ
を貼った写真



埋没縫合及び縫合テープの場合も以前同様にイソジン消毒を同期間施行して頂き、水に濡らすことは避けてください。2週間後を目安にし、普通に生活して下さい。

縫合テープは無理に剥がさずに徐々にかさぶたが取れるように剥がれていくのを待ちましょう。

それでは、今後も皆様のお役にたてますよう尽力したいと思います。



<医療者からの声>

どこを縫合しているか分からないくらい、傷口が綺麗です。
患者様からも好評です!